

日本学術会議・経済学委員会
第24期・第2回議事要旨

開催日時：2018年4月4日（水）、12:00-13:15

場所：日本学術会議事務局 5-D 会議室（5階）

出席者（敬称略）：北村（委員長）、溝端（副委員長）、永瀬（幹事）、黒崎（幹事）、井伊、池尾、大竹、大野、岡崎、西條（出席者数10名）

（1）前回議事要旨の確認

分科会世話人についての記述を一部修正するという条件付きで、前回議事要旨を承認した。

（2）分科会の進捗報告

経済学委員会の下に、以下の7つの分科会の設置が、すでに幹事会にて承認されていることを確認した。うち4分科会については、委員会がすでに開かれ、運営役（委員長、副委員長、幹事）が決定されている、残り3分科会についても、4月から6月の間に第1回委員会が開かれる予定である旨、報告があった。

運営役決定済み（カッコ内は分科会の委員長名）

IEA 分科会（大塚啓二郎・連携会員）

IEHA 分科会（岡崎）

数量的経済・政策分析分科会（西山慶彦・連携会員）

フューチャー・デザイン分科会（西條）

運営役未決定（カッコ内は分科会の世話人名）

ワーク・ライフ・バランス研究分科会（永瀬）

持続的発展のための制度設計分科会（井伊）

国際開発研究分科会（黒崎）

（3）その他

経済学委員会の下に設置されている分科会での議決は、提言を例外として、経済学委員会での議を経ずに自動的に経済学委員会の議決とみなすという23期までの運営ルールを、24期も採択することを承認した。

IEA 分科会が中心となり、IEA ラウンドテーブル会議を2018年秋に開催する準備を進めているとの報告があった。IEA と日本経済学会連合と日本経済学会(JEA)と日本学術会議経済学委員会の相互の関係について議論した。現在の経済学委員会には JEA 理事会メンバーが含まれないこともあり、次回以降の経済学委員会には、JEA 理事会にオブザーバー参加を

お願いすることを決めた（これは 23 期からの申し送り事項であった）。

経済学委員会の今期の活動として考えられる提言について議論した。個別の経済政策に関する提言は、『日本経済新聞』の「経済教室」などの媒体を利用して各委員それぞれが行うことを優先した方が効果的であるという意見が出た。その場合、経済学教育の大きな方向性、経済学研究の大きな方向性などに関する提言が、学会会議から出す意見表明としては意義深いことが指摘された。文部科学省における学術研究の大型プロジェクトの推進方針に沿ったマスタープランを、経済学委員会が中心になって作成・提出する際には、そのプランとリンクした提言を準備するという案も出た。研究内容としては、業務統計などを省庁間で連結して利用することにより、国民への便益が大きい経済研究が可能になることを強調してはどうか、という意見が出された。

次回の会議日程については、メール等で調整していくことが確認された。

以上